

関係機関・団体長
病 害 虫 防 除 員
農 薬 管 理 指 導 士] 様

山口県病虫害防除所長

平成19年度農作物病虫害発生予察特殊報第1号について

キク等の害虫アワダチソウグンバイについて、下記のとおり特殊報第1号を送付しますので業務の参考にしてください。

記

- 1 病虫害名 アワダチソウグンバイ
Corythucha marmorata(Uhler)
- 2 作物名 キク、アスター、ヒマワリ、サツマイモ
- 3 特殊報の内容 新発生
 (県内における農作物被害の初確認)
- 4 発生状況
 - (1) 発生初確認月日
 平成19年8月6日
 - (2) 発生地域
 周南市
 - (3) 発生の経緯と被害状況
 周南市のキク栽培農家から、農林総合技術センターに持込みがあり、葉の被害とグンバイムシを確認した。
 採集したグンバイムシ成虫の同定を神戸植物防疫所に依頼したところ、アワダチソウグンバイであることが判明した。
 その後の調査で下関市のキク、山口市のアスター、山口市、萩市、下関市、長門市、山陽小野田市のヒマワリ、山口市、下関市、山陽小野田市のサツマイモでの寄生とその被害を確認した。また、ほ場周辺のセイタカアワダチソウでの多寄生を確認した。
 - (4) 被害の特徴
 吸汁による被害で、葉表には脱色斑点、葉裏には黒い排泄物が見られる。被害が甚だしい時は葉全体が白化し、枯死に至る場合がある。
- 5 形態
 成虫の体長は約3mmで、前翅の周辺部と一部の翅脈上に顕著な棘を列生し、前翅には多数の不定形の褐色斑がある。幼虫は紡錘形で小豆色から黒褐色をし、多数の棘がある。
- 6 生態
 北米からの侵入種であり、平成12年8月に兵庫県西宮市で生息が確認された。
 葉裏に生息することが多く、幼虫は集団で加害する。平成15年の大阪府の露地キク調査(8月収穫)では、6~8月に発生が認められ、成虫の発生ピークは7月下旬と8月下旬であった。また、キク科雑草での越冬が確認されている。
- 7 寄主作物(他県の発生状況を含む)
 キク、ルドベキア、ミヤコワセレ、宿根アスター、ガザニア、ヒマワリ、アメリカンブルー、サツマイモ、ナス、アスター
- 8 防除対策
 - (1) 耕種的防除
 キク科雑草(セイタカアワダチ等)が発生源となるため、ほ場周辺の除草を行う。
 ただし、成虫発生後は、ほ場内に虫を追い込む可能性が高いので控える。
 - (2) 薬剤防除
 登録薬剤はキクのクロルフェナピルフロアブルのみである。大阪府病虫害防除所での薬剤感受性検定では、MEP乳剤、DDVP50乳剤、アセタミプリド水溶剤、ア

セフェート水和剤、アクリナトリン水和剤、イミダクロピリドフロアブル、クロルフェナピルフロアブル、シペルメトリン乳剤、チオジカルブフロアブル、ニテンピラム水溶剤の効果が高かったが、エマメクチン安息香酸塩乳剤、スピノサド顆粒水和剤、トルフェンピラド乳剤、ピリダベンフロアブル、フェンプロパトリン乳剤、ミルベメクチン乳剤の効果は低かった。



写真1 アワダチソウグンバイ(成虫)



写真2 アワダチソウグンバイ(幼虫)



写真3 キクの被害葉



写真4 ヒマワリの被害葉



写真5 サツマイモの被害葉



写真6 サツマイモの葉裏にいる成虫